

X.敷地調査

X-1.インフラ設備

1. 給水設備
 - ・ 本施設整備に対応するため、現在、新設を計画中である。
2. 排水設備
 - ・ 公共の下水管は敷設されていない。
 - ・ 敷設予定がないことから、浄化槽による処理後、自然放流とする。
3. 電気設備
 - ・ 現況は、照明設備のみで、動力系は敷設されていない。
 - ・ 関西電力と協議を行った結果、現況の電柱に引き込むことが可能である。引き込み距離が短いため、引き込み負担金は不要と考えられる。
4. 都市ガス
 - ・ 現況は、敷設されていない。また将来的な敷設見込みもない。
 - ・ この場合、LPG (将来都市ガスが供給される場合、LPGを暫定利用した後、切替えを想定する)を燃料とする検討はしない。



■アプローチ(高倉林道)からの見え方



■北側の眺望(正面に笠山、背後は市街地、海)

X-2.景観分析

1. 敷地の概要
 - ・ 敷地は南北約230m、東西約120m であり、敷地境界沿いに尾根線が少し出入りする長方形となっている。
 - ・ 谷の最奥部のため三方を低い尾根に囲まれるが、明るく開けた印象を与える。
 - ・ 標高は172m から206m、南に向かい緩やかに上っている。(勾配 約10%)
 - ・ 北に向かったの視界は開けており、大阪湾までが谷筋の間に一望できる。
2. 地質
 - ・ この地域一帯の地質は和泉層群から形成されており、敷地の北東端境界部に向斜構造を持つ礫岩層の露頭が見られる。
 - ・ 敷地はこの和泉層群の砂礫により盛土され、地表部は泥岩、礫岩の小片の混じった砂質土となっている。



■露頭した和泉層群



■泥岩、礫岩の小片が混じる砂質土

3. 植生

- ・ この地域一帯の植生はモチツツジ-アカマツ群落に属しており、乾燥地で貧栄養な立地にみられ、高木層にアカマツが優占し、低木層にモチツツジが出現する。
- ・ 本計画地ではこの群落が遷移段階にあり、ウバメガシ、ヤマモモ、ネズミモチ、コシダ等が侵入している。
- ・ 今後、ウバメガシ-ネズミモチ-コシダ群落といった常緑広葉樹林へと変化し、安定すると考えられる。



■現況植生



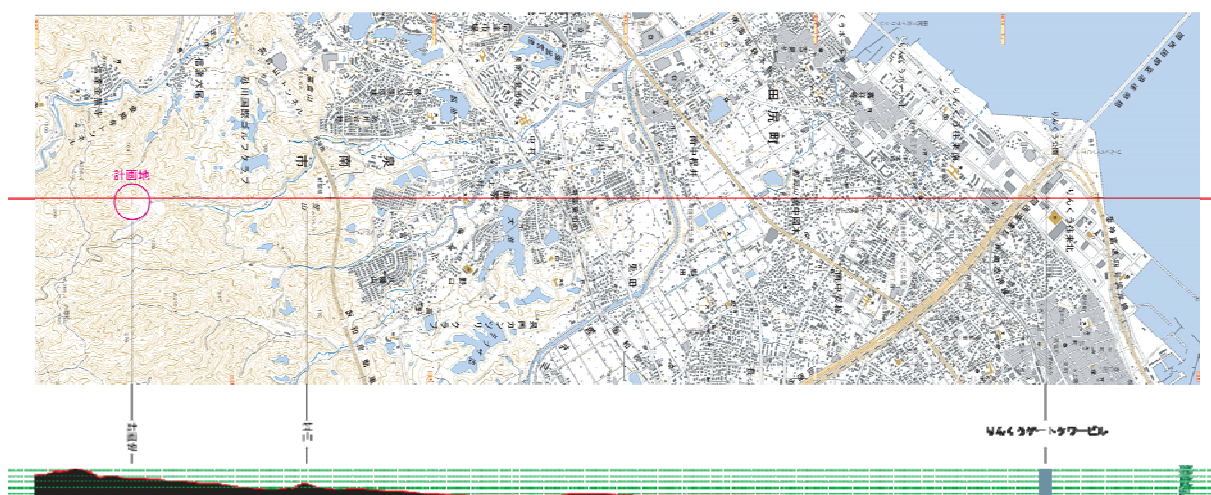
■ヤマモモ、コシダの生育が見られる

4. 気候

- ・ 瀬戸内海式気候区に属し、温暖である。
- ・ 年間の平均気温は16℃程度、降水量は変動が大きく、過去10年で905mm/年から1708mm/年となっている。
- ・ 平均風速は2.3～2.4m/s、年間の卓越風は南であるが、計画地は北向きの谷筋であることから、海陸風が主風となっているとみられる。
- ・ 日照時間は概ね2,000時間程度である。

(気象庁による近傍にある熊取町のデータより)

図-X-① 眺望-断面の状況



X-3.地震分析

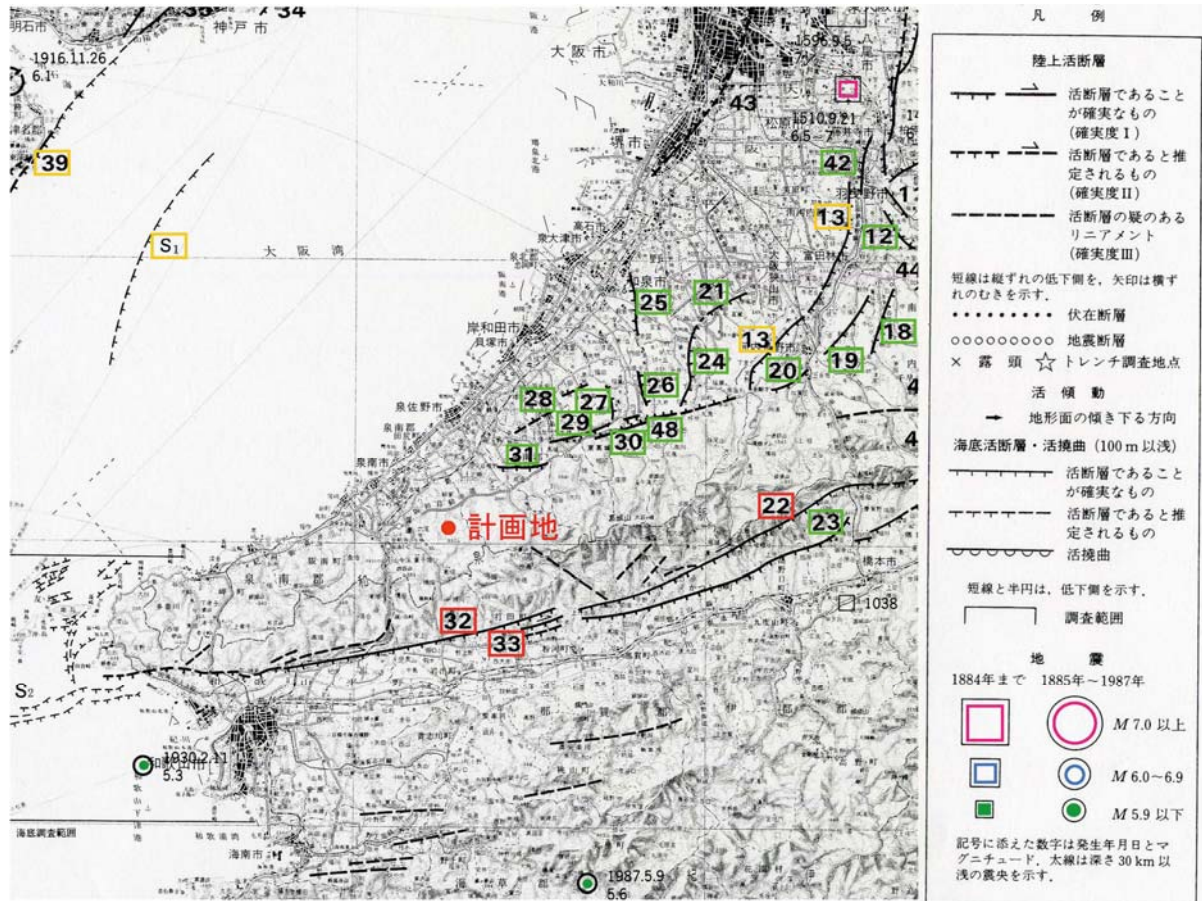
1.計画地周辺における活断層の状況

- ・ 計画地を含む周辺地域の活断層の状況は、図-X-② 活断層の状況による。
- ・ 活断層の活動度を過去における活動の程度により表わす。変位量をその形成時から現在までの年数で割った値を用いて、下記の表の通り、分類する。
- ・ 計画地の南側に存在する中央構造線 No22、32、33の活動度が高い。

- ・ 計画地の北側には、活動度は低いが、上記の構造運動に参加する断層が存在する。

図-X-② 活断層の状況

活動度の分類	A	B	C
	$10 > S > 1$	$1 > S > 0.1$	$0.1 > S > 0.01$
	第4紀の平均変位速度S(単位はm/1000年)		
図中の凡例	番号を赤線枠の囲み	番号を黄線枠の囲み	番号を緑線枠の囲み



引用:「日本の活断層」活断層研究会編 東京大学出版会

2.計画地周辺における想定地震と震度

- ・ 計画地に影響する大規模地震が起きる震源域は、大きく3つに分けることができる。
- ・ ①太平洋側沖合の南海トラフ沿いで発生する海溝型地震＝東南海・南海地震、②大阪平野を南北にのびる上町断層帯で発生する直下型地震、③計画地の直ぐ南側を走る中央構造線断層帯で発生する直下型地震である。
- ・ 泉南市地震防災マップによる、計画地の想定震度は、以下の通りである。

	マグニチュード(想定)	今後30年内の発生確率	想定震度
①東南海・南海地震	7.9～8.6程度	60～70%	震度5強
②上町断層帯地震	7.5～7.8程度	2～3%	震度5強
③中央構造線断層帯地震	7.6～7.7程度	0.06～14%	震度6強